

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
○	1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護事業部の介護理念があり、玄関に理念を掲げている。管理者会議・全体会議で唱和をしている。	介護事業部の理念を、玄関と事務所に掲げており、会議等では唱和している。又、チームワーク強化のための実践的な目標として、「元気に挨拶をする。仕事は気づいた時に片付ける。動くときは他の職員に声をかける。人任せにしない。」をあげてから、職員の意識は上がっている。	
○	2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の日役に参加したり、にしがき全体で地域の方を招いて交流会を行っている。	春と秋に水路の地域清掃に参加し、地域住民と挨拶や会話を交わしている。豊岡市の地域包括ケアシステムに向けてグループホームとしてカフェタイムやフットマッサージ、ネイルケア等の簡単レクリエーションを検討し、地域に貢献したいと考えている。又、グループホーム等の施設に関して地域住民の理解を得るため、説明会や専門的な技術の提供、土日の施設開放等も計画している。	
○	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	街の中・住宅街に事業所がある事で地域の方々へ浸透していつている。		
○	4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進委員会を行い、利用者様状況やサービスの実施内容を報告し、出席されている外部の方々より評価を頂いている。	包括支援センター職員、家族等に参加頂き、2か月に1回開催している。出来るだけ多くのご家族に参加を依頼をしているが、参加には至っていない。会議では、実践しているレクリエーションの評価を行って頂いたり、手打ちそばの提供など、グループホームの取組み等への理解を深めて頂けるよう努めている。	運営推進会議への参加者を、もう少し増やし、いろいろな意見を戴くよう、出席してもらえ工夫を一考されることを望む。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	○	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明点は市の担当者(高年福祉課等)へ連絡をとり、連絡等を行っている。	豊岡市が計画する地域包括ケアシステムに積極的に参加したいと考え、前準備の計画として施設独自の対応を検討している。又、事業所の運営での課題や疑問点があれば、随時、市の窓口にご相談し、助言や指導を頂いている。	
6	○	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について年次研修を行っており、理解をしている。玄関の施錠も、利用者様の安全を確保しつつ身体拘束しないようにケアに取り組んでいる。	入職時と年間研修計画で身体拘束と虐待防止について研修を受ける機会を設け、理解を深める取組みを行っている。又、利用者に対して言葉掛けや態度が微妙な職員には、管理者がその都度、周知と理解を深めるよう指導している。又、利用者の安全面を考慮し、玄関には施錠を行っているが、各ユニットからは出入りが出来、閉塞感や抑圧感のない暮らしの支援に努めている。	
7	○	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について年次研修を受けており、職員全員が理解してケアを行っている。また、虐待が見過ごされないように、日々皮膚状態等の確認・職員間でも意見を出し合いながら言葉遣い等にも注意している。	身体拘束と同様に年に2～3回の研修を行い、不適切なケアが行われないよう意識向上に努めている。又、管理者は職員のストレスがケアに影響しないよう、日頃より関係性を築き、職員の発想を理解した相談し易い環境作りを意識し、虐待が見過ごされないよう注意をはらっている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行いスタッフ全員が学べるよう機会を設けています。	制度を利用している利用者はいないが、権利擁護に関する研修を行う事により職員への周知を図っている。今後、制度利用の依頼があれば管理者が窓口になり、行政との連携により支援する体制は整っている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定等の際には、理解・納得して頂ける様に契約書内容の説明を行っている。また、疑問点や不安についても確認するように行っている。	契約時には契約書、重要事項説明書に沿い、質疑応答を交えて納得のいくまで説明を行い、文書による同意を頂いている。入所後に出来ること、出来ないことの説明も充分に行い、契約内容に改訂事項が発生した場合、別紙にて説明し、理解頂いている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱は設置しているが、入っていたことはない。苦情や要望があり、反省されているが、書類等が保存できていない。	家族会が年に数回開催され、検討された内容は事業所にも開示され、出された意見や要望の把握に努めている。ご意見箱の設置を行っているが、苦情や要望が入っている事がなく、家族が来訪されたときに個別に生活に対する要望や意見を聞き取り、計画作成に反映している。又、職員の提案により各担当者が利用者の日常生活と写真を毎月送付し、ご家族より好評を頂いている。	「ゆめゆめライフ」という活動報告書は、写真も沢山あり、利用者様の様子が良く伺えるので、できれば月に1回、ずっと継続していかれることを期待する。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に数回面談を行っている。また、利用者面で、ケアカンファレンス・リスクマネジメントを行っている。	以前に行われていたスキルアップを図るための取組みは現在は実施されていないが、管理者が随時、職員個別面接の機会を設け、ストレスや不満が解消できるよう取り組んでいる。又、職員から出された要望や提案は運営に反映できるよう努めている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	○	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の状況については直接的に話をする機会や、上司を通じて把握されている。定期的に全職員の面談を行っている。		
13	○	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内では新人研修を行っている。また、書面や報告を通じて職員の実際と力量を把握している。また、研修は内部のみでなく、外部のものについても、研修内容を掲示するなどして研修機会の確保を行っている。		
14	○	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型事業者連絡協議会に管理者と従業員一緒に参加し、同業者と研修や交流を行っている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15	○	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の事前聞き取りなどで、ご本人の問題点や要望等を聞きとり、関係を築いていくように努めている。		
16	○	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前の事前聞き取りなどで、ご本人様の問題点や要望と同時にご家族様の不安な事や困っている事を聞き、今後の関係づくりに努めている。		
17	○	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前に必要性や緊急性を聞き取り、他のサービスの方が良い場合がないかなどを見極めている。		
18	○	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は生活の場であることを自覚し、ご利用者様に出来る事は自身で行って頂いている。		
19	○	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に体調面や少しの変化についてもご家族様に報告している。また、定期受診の受診結果も報告している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		(11)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	受診は今までのかかりつけ医を継続し、ご家族様やお知り合いや地域住民の支えでなるべく行って頂くよう支援をしている。	入居時に家族からこれまでの生活歴や趣味、馴染みの関係の人、地域との関わりなどの情報を収集し、生活に反映できる体制をとっている。受診や散髪などの外出の要望に関しては家族の協力を依頼している。又、友人、知人の来訪時には場所の提供など、馴染みの関係継続を図れるよう努めている。	
			○ 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様のできることを把握し、職員と一緒に他のご利用者様とも協力しながら日常生活を自身で行って頂けるよう支援をしている。		
22			○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了されたご利用者様も関係を切らさないよう、ケアマネやご家族様に連絡をとっている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23		(12)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様一人一人の思いや希望を受け止め、把握して行っている。困難な場合でも少しでも希望に近づけるように支援している。おもに居室担当が要望を拾い上げ会議にて提案し検討し実現できるよう対応を行っている。	入居時に聞き取った生活歴や趣味についての情報を基に、日々の関わりの中から思いや意向の把握に努めている。又、意志の疎通の困難な利用者には毎日の表情や反応から思いを把握しコミュニケーション作りで反映させている。	
24			○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシート・アセスメントシートを記入し、本人様の状況を職員が全員が情報共有している。また、今までの生活や暮らし方を大切にしてケアを行っている。		
25			○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノート・ケース記入を行っており、出勤時は必ず確認するし、職員が口頭で利用者様の体調面や変化があったことを申し送りしている。		
26		(13)	○ チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当を中心に、アセスメント用紙の記入や担当者会議を開き、問題点や課題について話し合いの場を持つようにしている。	計画作成担当者は利用者の思いや意向からサービス計画を作成し実践に努め、居室担当者とのモニタリングも毎週行っている。計画書はそれぞれのユニットで管理し、職員間で共有を図り、日々の支援に反映させ、モニタリングにより次の計画に繋げている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員でカンファレンス・アセスメント表を記入している。また、ケア記録を記入し、記録を確認しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看取りの同意書をご家族様に記入して頂き、看取りの体勢をとっている。ご家族様・医療機関・グループホームで対応を行っている。		
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握しながら安全に暮らして頂けるよう協力を求める事がある。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診が困難な方の為にも、訪問診療を受けている。また、ご家族様が受診対応される利用者様に対しては、職員からDR宛てに手紙に現在の状況を記入して持って行っている。	基本的に受診は、もともとの利用者のかかりつけ医にご家族対応をお願いしているが、状況に応じて施設で対応している。又、救急病院が豊岡病院だけのため、受診にはかなりの時間を要しているため、今後の対策を検討している。受診時には介護サマリーにより、入居者の情報を的確に提供しており、受診後の情報は職員で共有し、必要な情報基属にも伝え、連携を図っている。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	デイサービス看護スタッフと連携を取りながら利用者様の状態を見て頂いている。その意見を参考にしながら適切な受診などを支援している。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に医療機関へ行き、情報交換を行っている。また主治医には随時報告を行い連携を密にできるよう努めている	入院時は介護サマリーにより迅速に情報提供を行い、病院の地域連携室と情報を共有し、早期退院に向けて支援している。入院が2週間以上に及ぶ場合は、退所をお願いしているが、退院後希望があれば、優先的に入所を検討したいと考えている。	
		○重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合で、他施設の方が適切である場合には相談を行い、利用者様にとって最適な状況で生活して頂けるように支援している。また、終末期においても医療機関やご家族様と連携を取りながら支援している。	入居契約時に重度化や終末期に向けた事業所の方針を説明し、終末期対応についての意向を確認している。又、重度化や終末期を迎える早い段階で、家族、主治医、事業所間で情報を共有し、終末期の方針や支援の具体的な内容を介護計画により提供し、家族の意向に沿った支援に取り組みたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生については年次研修を行い理解を得ている。急変時応急処置の対応についても研修を行っている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練を実施し、実施の際には地域の方々にも声を掛けて協力して頂ける体制づくりを行っている。	年に2回の消防訓練を昼夜想定で行っており、救急救命の講習は年に2回実施している。水害対策としては、時間の有る場合は近隣のコープデイズへ移動する予定だが、時間が限られた場合は建物の2階で待機を予定している。緊急時の連絡網も整備されており、備蓄食料は3日間用意され、賞味期間も確認している。地震時は二次災害を予防するため、電気ブレーカーを落とす等の対応や救急処置に関しても身近に有る物で対処できる様、職員は周知している。又、近隣住民への協力依頼を行い、関係作りに取り組んでいる。	年2回の災害訓練の時に地域の方々に実際に参加していただき、協力体制をしっかりと確立できるように期待したい。

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修や日々の職員間での声掛け等を通して、言葉遣いに気を付けている。	利用者の誇りやプライドを損なわない対応に留意し、気づきに対しての意識づけが徐々にできるようになった。年間の研修計画に接遇について実施し、人格の尊重やプライバシーの確保に取り組んでいる。また、個人情報の取り扱いや写真の掲示について、家族等に了承いただき適切な管理を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話等の中で利用者様に希望や要望を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員全員が生活の場であることを認識し、個々のペースを大切にしながら支援して行く。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や洗顔などの基本的な事を中心に支援している。入浴に行かれる際や起床時は自身で服を選んで頂くようにしている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	屋食時に盛り付けを手伝って頂いたり、食器洗いなどを職員と一緒に行って頂いている。定期的に鍋やバーベキューやお菓子作りや蕎麦打ちなどもおこなっている。	食事は法人の業者より届けられ、盛り付けを利用者と一緒に行っている。下膳や食器洗いも職員と共に行っている。又、利用者からの要望に応じてお好み焼きやバーベキューをメニューに加えたり、個別ケアでラーメンを食べに行ったりと食事の変化を楽しむ機会を設けている。職員も同じテーブルで同じ食事を摂り、家庭的な雰囲気の中で和気あいあいと食事をしている。大晦日には職員の打ったそばで年越しをし、夏はそうめん流しを楽しんだ。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を把握し、水分量が少ない利用者様の対応なども考えたり、医療機関に報告したりしている。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後・臥床時は必ず口腔ケアを行うようにしている。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔や状態を把握しながら、自立に向けた支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄の状況に応じてタイミングをはかりながら誘導し、利用者の意識の改善や精神的な安定に繋げている。排泄介助時は、ドアの開閉や声掛けに配慮し、プライバシーを損なわない対応に努めている。又、排泄に関して、職員の気づきも改善され、利用者の自立に向けた支援ができる様になった。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物や定期的な運動、または医療機関との連携にて便秘の原因を考えながら取り組んでいる。朝食にヨーグルトを提供し腸内環境の改善に努めている。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ希望通りに入浴して頂けるように考えているが、どうしても希望通りにならない時もある。	1週間に3～4回の午前浴を基本とし、希望に沿った入浴を支援する様努めている。又、体調や希望に応じて臨機応変に対応し、柚子湯等の行事湯も楽しんで頂いている。入浴を嫌がられる利用者には、無理強いせずタイミングを図り、入浴出来るよう工夫している。ご家族の協力を得て、近隣の乙女湯や城崎の足湯へ出かけることもある。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣を元にししながら、睡眠の時間がとれるように支援している。昼食後はお昼休みの時間を設けている。どうしても眠れず本人が困っている場合は薬等の医療の力も借りて安眠できるよう支援を行っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスが無いように、職員二人がダブルチェックを行ったり、配薬袋に薬の写真をはさみ配薬ミスや服薬ミスが無いようにしている。薬を一包装し、薬袋に服用する日付を記入している。また、効能・副作用を理解するために説明書きに目を通してしている。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様に応じた役割(食事準備や洗濯物たたみ等)、楽しみ(散歩等)を考え、行って頂けるように支援している。将棋・かるた・百人一首・トランプ雑誌・地域の写真集・漫画などいつでも手に取れるよう準備している。		
49	(22)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設側だけでなく、友人・ご家族様等協力をお願いし、密に連絡を取り合い、ゆかりのある方と交流を持ってもらえる支援を行なって頂けるよう支援して行く必要がある。	天候や利用者の状況に応じて近隣を散歩する習慣が有る。ご家族の協力により、外食を楽しんだり、馴染みのある場所へ出かけたりと外出できる機会を支援してもらっている。又、希望に応じて個別対応での外食や近隣の温泉巡り等も企画し、支援している。	施設の行事をたくさんしておられるので、その都度、近隣の方々を招待して交流されることを望む。
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はお金を持つことの大切さは理解している。金銭は全て施設側で管理している、買い物したいものは立替を行っている。どうしてもという方はお小遣いとして施設の金庫でお預かりしている。盗難や紛失を防ぐため。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に電話をされたい方は電話ができるように支援をさせていただいている。ご家族様に手紙を書かれる方は今のところおられません。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気の入替えや光の調節などで季節感などを体感して頂けるように支援している。ソファや本棚を用意して家庭環境に近づけていっている。	明るく広い共有空間に本棚を置き、利用者が好みの本を個別で楽しんで頂ける様、支援している。各フロアには利用者と職員が手作りした季節感のある飾りを掲示し、室内の雰囲気作りを行っている。又、ソファの位置を工夫し、居心地良く過ごせる様配慮している。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の金魚水槽に椅子や二階エレベーターホールに椅子などを設置し一人になれるような空間を用意している。また相談室やスタッフ休憩室を必要に応じご利用者様にもご使用いただいている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様自身の写真を居室に飾ったり、ご家族様の写真を居室内に貼って、居心地良く過ごして頂けるように工夫している。また季節の絵などを飾ったり季節を感じられるよう配慮している。	利用者が使い慣れた家具や思い出のある調度品を持ち込んで頂き、居心地の良い快適な空間を提供できるよう支援している。職員が各居室の表札を個別に手作りし、自室が理解できるよう個性を尊重した工夫を行っている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	大きな日めくりカレンダーを設置しご利用者様が自らわかるように、また季節に合わせてリビングの飾りなど模様替えを行い季節がわかるように、トイレは「トイレ」「便所」「お手洗い」など標識を変更統一しどの読み方もわかるようにしている。		